

平成 23 年度日本植物病理学会関西支部会のお知らせ

平成 23 年度関西支部会開催地委員長 秋光和也

平成 23 年度日本植物病理学会関西支部会を下記のとおり開催致しますので、万障お繰り合わせの上、奮ってご参加下さいませようご案内申し上げます。

I. 日程と会場（時刻は予定です）

- ・日時：平成 23 年 10 月 1 日（土）
13：00～14：00 総会
14：30～18：00 一般講演
18：30～20：30 懇親会
- 平成 23 年 10 月 2 日（日）
9：00～12：00 一般講演

- ・会場：サンポートホール高松 〒760-0019 高松市サンポート 2-1 高松シンボルタワー・ホール棟
- ・懇親会場：全日空ホテルクレメント高松 〒760-0011 香川県高松市浜ノ町 1-1 (<http://www.anaclement.com/>)

II. 参加申込

- ・締切：平成 23 年 8 月 8 日（月）
- ・費用：参加費 3500 円（締め切り日以降は 4500 円）、講演要旨集 1 部 2500 円、懇親会費 6000 円（学生 3000 円）
- ・要領：同封の郵便振替払込取扱票（口座番号：01690-1-68840、加入者名：平成 23 年度日本植物病理学会関西支部会）に必要事項を記入し、締切日までにご送金ください。払込用紙の通信欄のコピーを、領収書・講演要旨集などの宛先ラベルとして使いますので、送り先・氏名などは正確に記入して下さい。郵便振替払込取扱票による送金をもって部会参加の申し込みとします。整理の都合上、払込用紙は参加者 1 名ごとに 1 枚をお使いください。払込用紙をさらに必要とされる場合は、郵便局に備え付けの用紙をご利用ください。参加を申し込まれた方には、9 月上旬に講演要旨集ならびに名札をお送りします。この名札は領収書を兼ねますので、部会参加期間中は必ず携行してください。

III. 発表申込

- ・締切：平成 23 年 8 月 8 日（月）17：00
- ・要領：発表ができるのは日本植物病理学会会員（平成 23 年度会費納入者）で、1 人 1 題のみとします。発表希望者は、末尾「講演要旨原稿作成要領」に従って講演要旨原稿を MS WORD ファイルで作成し、E-mail 添付ファイルとして関西支部会プログラム担当用アドレス（byori@ag.kagawa-u.ac.jp）宛にご送付下さい。E-mail の題名（件名）は、「要旨」＋「：」＋「発表者氏名」として下さい。また、添付ファイル名は「発表者氏名.doc」として下さい。原稿が正しく受け付けられた場合には、受け取りのメールを送付者宛に返送します。受け取りのメールは 1～3 日で送付しますが、届かない場合は正しく受け付けられていない可能性がありますので再送付して下さい。講演要旨原稿送付をもって発表の申し込みと致します。なお、講演要旨は座長等による審査の後に「日本植物病理学会報」に掲載されます。

IV. 発表の形式と要領

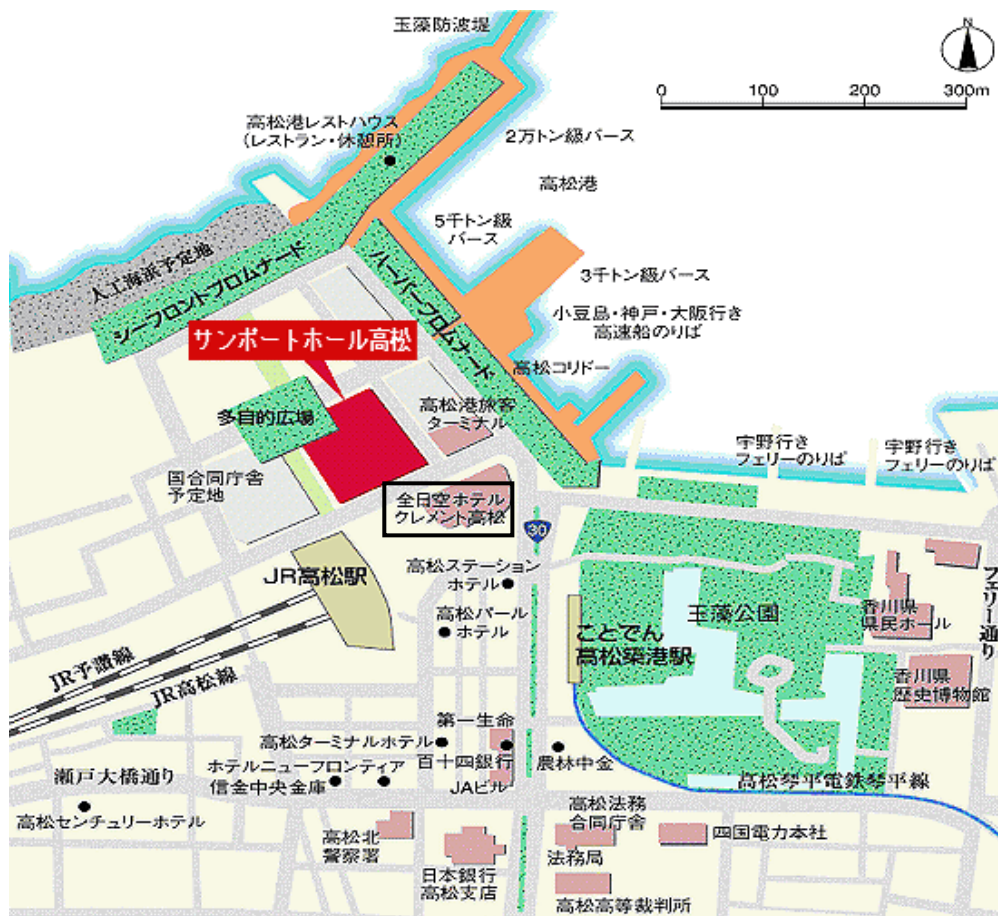
- ・発表形式：今年度の部会での発表は口頭のみで行います。ポスター発表は行いません。
- ・口頭発表要領：口頭発表は討論時間を含めて12分程度を予定していますが、演題数によって変更することがあります。発表用ファイルは「Power Point 2007 あるいはそれ以前のバージョン」で作成し、CD-Rに保存してください。その際、ファイル名はすべて半角で「講演番号-発表者姓」として下さい(例「123-Akimitsu」)。さらに、そのCD-R表面に講演番号と発表者氏名を油性マジックで記入の上、受付に提出して下さい。また、重いファイルはパソコンの動作に不具合をきたすことがありますので、できるだけ軽いファイルにしてください。

V. 宿泊と交通

開催地事務局では宿泊・交通等の斡旋は行いませんので、各自で手配をお願いします。高松はコンパクトな街で、JR高松駅周辺、琴平電鉄/瓦町駅・片原町駅周辺に多数あるホテルの大部分は会場まで徒歩圏内です。会場までの公共交通機関(電車・バス)・タクシー・レンタル自転車等も充実しています。

<会場までのアクセス>

JR高松駅・高松駅バスターミナル：徒歩1分、四国自動車道：高松中央ICまたは高松西ICから約20分



琴平電鉄(ことでん)高松築港駅から、片原町駅までは一駅(約3分)、瓦町駅までは二駅(約5分)です。

VI. 連絡先

平成 23 年度関西西部会に関する各種お問い合わせは、開催地事務局（秋光和也）へお願い致します。講演発表の申し込みはプログラム担当（市村和也・多田安臣）までお願い致します。

- ・平成 23 年度日本植物病理学会関西西部会開催地事務局

〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸 2393 香川大学農学部応用生物科学科

TEL&FAX : 087-891-3131 (秋光和也)

E-mail : kazuya@ag.kagawa-u.ac.jp

- ・関西西部会プログラム担当

〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸 2393 香川大学農学部応用生物科学科 市村和也・多田安臣

E-mail : byori@ag.kagawa-u.ac.jp

講演要旨原稿作成要領

昨年度と同じです。

<全体の大きさ> 和文講演者氏名から所属略称までが、縦 73mm、横 161mm の枠におさまるようにする。1 つのファイルに収める講演要旨原稿は 1 つとすること。

<ページ設定>

ー用紙サイズ：A4 用紙、縦方向。

ー余白：上 15mm、下 30mm、左 25mm、右 25mm。

ー文字数と行数：「文字数と行数を指定する」を選択し、文字数 50、字送り 9pt、行数 51、行送り 14pt にする。

<配置> 両端揃え（所属略称のみ右端揃え）

<フォント>

ーフォントサイズ：すべて 9pt。

ー日本語用フォント：平成明朝または MS 明朝（但し和文題目のみ平成角ゴシックまたは MS ゴシック）

ー英数字用フォント：Times New Roman。すべて半角。

ー句読点：「,」「,」

ーイタリック指定：題目、本文中とも、学名などイタリックにする必要があるものはすべてイタリックで表記。

<和文講演者氏名> (1 行) 講演者が複数の場合は中点「・」で区切り、発表者名の前に丸印「○」をつける。所属が異なる場合には、「*」「**」で区別する。

<和文題目> (2 行以内) フォントは平成角ゴシックまたは MS ゴシックとする。

<英文講演者名と英文題目> (2 行以内) 氏名は、family name, first name initial, middle name initial の順に書き、initial の間にはスペースを空けない。講演者名と英文題目の間は、コロン「:」で区切る。

<本文> 9 行以内で記載する。

<所属略称> (1 行) 括弧「()」に入れ、右端揃えとする。複数の場合は中点「・」で区切り、和文講演者氏名に対応させて「*」「**」をつける。

講演要旨原稿の下に、以下の情報を記入する。

- (1) 発表希望分野 (「糸状菌病」「細菌病」「ウイルス病」「その他」の中から1つ選ぶ)
- (2) 発表内容 (「分類・同定・診断」「発生生態」「感染生理」「防除」「その他」の中から1つ選ぶ)
- (3) 対象植物 (和名または学名で示す)
- (4) 対象微生物 (和名または学名で示す)
- (5) 原稿送付者の氏名
- (6) 原稿送付者の E-mail address
- (7) 発表者の学会会員番号 (会員番号は封筒の宛名シールに記載されています。平成 23 年度会費未納の方は、至急会費をお支払いください。)

講演要旨原稿の例

(実際の大きさです。点線枠は要旨集に掲載される範囲を示すもので、印字の必要はありません。)

○福元健志・大谷耕平・加野彰人・何森 健・田島茂行・重松由夫*・小原敏明*・田中啓司*・石田 豊**・市村和也・多田安臣・西澤洋子***・五味剣二・秋光和也

希少糖の植物への作用 (17): D-allose 処理イネの GA および ABA シグナルの制御における糖リン酸化の関与

Fukumoto, T., Ohtani, K., Kano, A., Izumori, K., Tajima, S., Shigematsu, Y., Ohara, T., Tanaka, K., Ishida, Y., Ichimura, K., Tada, Y., Nishizawa, Y., Gomi, K. and Akimitsu, K.: Effects of Rare Sugars to Plants (17): Involvement of Phosphorylation of D-allose in the Regulation of GA and ABA Signaling in Rice.

先の全国大会までに、D-allose が DELLA タンパク質下流のジベレリン(GA)シグナルを負に制御して、イネの生育抑制を誘起する事を報告し、イネ馬鹿苗病の病害防除場面における D-allose 利用の可能性を提案してきた。また、D-allose 処理イネにおける GA シグナル抑制には、ヘキソキナーゼ (HXK) が密接に関与する事を明らかにした。さらに、D-allose 処理イネにおけるアブシジン酸 (ABA) シグナルの活性化が D-allose の生育抑制作用に重要である事が示唆され、ABA シグナルの活性化にも HXK が密接に関与する事も明らかにした。そこで、今回は、HXK による D-allose の C6 位の糖リン酸化が D-allose 作用において重要か否かを検討するため、6-deoxy-D-allose を新たに合成し、イネにおける生理作用、GA および ABA シグナルの挙動解析を行った。その結果、D-allose の C6 位の糖リン酸化が D-allose の生長調節作用に重要である事が示唆された。

(香川大農・*三井化学アグロ・**四国総合研・***生物研)

- (1) 糸状菌病
- (2) 感染生理
- (3) イネ
- (4) イネ馬鹿苗病菌
- (5) 福元健志
- (6) xxxxx@xxx.xxx-u.ac.jp
- (7) 123456